

第3回あわら市水道料金等検討委員会 会議録（要旨）

1. 日 時	令和元年8月30日(金) 14:00~15:35	
2. 場 所	あわら市役所 203 会議室	
3. 議 題	(1) 公共下水道事業会計の見通しについて (2) 下水道使用料のシミュレーション	
4. 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 資料1 (第3回水道料金等検討委員会資料) ・ 資料2 (投資・財政計画10%増、20%増、30%増及び値上げ額早見表) ・ 資料3 (使用量別値上げ額早見表) 	
5. 出席者	委 員 :	浅沼美忠、谷口環、近藤淳一、達川昌美、中嶋敬造、高橋昌則、高橋紀美、宮川修治、前田健二
	事務局 :	城戸橋政雄(副市長)、小嶋範久(土木部長)、伊藤裕一(土木部理事)、岩田利和(上下水道課長)、浅田政幸(上下水道課長補佐)、山口功治(上下水道課長補佐)、江守伊佐子(上下水道課主査)、東真一郎(上下水道課主査)、向出達大(上下水道課技師)
6. 傍聴人	なし	
7. 会議録		
1. 委員長あいさつ	(委員長挨拶)	
	(副市長挨拶)	
2. 議事 (1) 公共下水道事業会計の見通しについて	(事務局より資料1で説明)	
委員	下水道の接続率はどれくらいか。	
事務局	今年度末で94.7%である。下水道の接続にはトイレだけでなく、台所や洗濯、お風呂などの排水なども接続しなければいけない。そのため、大きな費用がかかるため一人暮らしの高齢者などの年金のみで生活しているような世帯においては接続が滞っている家もある。ただ、若干はあるが毎年接続率は伸びている。	

委員長	収益的収支には一般会計補助金を受けているが、資本的収支には一般会計補助金を受けていないのか。
事務局	資料には明記していないが、それぞれ不足額に対し補助金を受けている。収益的収支に対しては以前から受けているが、資本的収支に対しては平成30年度から不足額が生じ受け始めた。
委員長	資本的収支に対する将来の不足額は一般会計からの補助金を受け入れないといけないということか。
事務局	使用料の増額などをして新たな財源の確保を行わない限り、このままでは一般会計補助金を受けなければならない。
副市長	水道事業会計については資本的収支に不足額は生じないが、公共下水道事業会計については資本的収支に不足額が生じる。
委員長	経営戦略P15を見ると、坂井市と比較して汚水処理原価が倍近くとなっているがなぜか。
事務局	スケールメリットもあるとは思いますが、経営戦略のP11にあるように汚水処理原価は有収水量1m ³ あたりの汚水処理に要した費用、汚水資本費と汚水維持管理費の合計となっており、この汚水資本費については資本的収支の支出の大きな要因となっている企業債償還金が含まれているため、坂井市と比較し高くなっている。坂井市は企業債償還金が少なく、全国の同規模の団体と比較しても汚水原価が小さい。特殊ではある。
2. 議事 (2) 下水道 使用料のシミュレーション	(事務局より資料1、2、3で説明)
委員	茨城県守谷市というところでは、今年度の消費税増税に伴って料金を値下げしたと聞いている。そういった料金を値下げするといった状況もよく調査し、なぜそれが実現できて、あわら市でもそういった工夫を凝らすことで料金の値上げをしなくても、少しでも抑えるといったことができないか研究していただきたい。
事務局	後日調査して報告させていただきたい。

委員	<p>一般家庭でも大口利用者でも差別がないように料金の決定をしていただきたい。</p> <p>また、最近は金利も小さくなっていることから企業債償還金の圧縮方策についても検討していただきたい。</p> <p>人件費が変わらないのが違和感を覚える。これで大丈夫か。</p>
事務局	<p>過去に利率の高い企業債について借り換えをしている。ただ、借り換えに当たっては市場に大きな影響を及ぼしかねないこともあってか、国等から許可を受けた分のみであった。</p> <p>現在、もう一度許可を出すように国に対し、全国の自治体が共同して要望をしているが、資料1の収益的収支にもあるように今後は高い利子の企業債の償還が完了してくるので、あと5年後には大幅に減ってくる。</p> <p>人件費については、人事異動等に伴い変動があるので過去5年間の平均値で算出することとしている。ただ、だからといって人件費が削減できないとは考えてなく、現在、民間委託なども含めて技術の継承問題も含めてコスト縮減できないか検討中である。</p>
委員	<p>公衆浴場や温泉汚水はどれくらいあるのか。</p>
事務局	<p>公衆浴場についてはあわら市が運営するセントピアあわらと福井坂井地区広域市町村圏事務組合が運営する YONETSU-KAN ささおかがある。</p>
事務局	<p>温泉は 25 本ある。</p>
委員	<p>温泉汚水の使用料については値上げを考えていないのか。</p>
事務局	<p>温泉汚水についても値上げをしたいと考えている。</p>
副市長	<p>温泉汚水は基本料金のみであるが、旅館としては水道の使用分については下水道使用料を別途負担している。</p>
委員長	<p>水道水準をみると公共下水道事業会計の場合には 48%、水道事業会計の場合には 28%増加させないと独立採算がとれないとのことであるが、そこまで一度に増額することは難しいという意見となっている。料金水準を決定するうえでなんらかの基準が欲しいが市として何か考えがあれば示してほしい。</p>

副市長	すべてを料金の値上げで対応することは難しいと考えている。また、段階的に解消することも検討しなければならないと考えている。次回にはそれらのシミュレーションも示してご意見をいただきたい。
委員	企業としても実際にシミュレーションをして回答したい。
委員	2028年までに施設を更新・修繕する計画はあるのか。
事務局	下水道施設についてはまだ耐用年数が到来していないので、昨年度ストックマネジメント計画を策定し、定期的に調査を行いながら不具合箇所について補修することとしている。
委員	更新するにあたって本当にその規模の管径の污水管が必要なのかを検証しながら実施していくのか。
事務局	下水道の污水管は管径が大きいため調査もしやすく、また、補修に当たっては管径が小さくなるが内面を補修する工法なども存在しているので、そういった手法を取り入れながら大きな費用をかけずに長寿命化し、平準化を図っていきたい。
委員長	下水道使用料は前回いつ改定されたのか。
事務局	平成23年度である。
委員長	5,000 m ³ 使用しているところもあるのか。
事務局	市内にある大手企業や旅館の一部、役所関連の施設である。
委員長	今後のスケジュールとしては、次回が料金の水準及び体系について検討し、5回で終了となるのか。
事務局	第2回及び第3回で水道と下水道を分けて議論したこともあるので、6回でお願いしたい。次回4回では料金水準と体系の議論、第5回では水準と体系の決定と提言書の検討、第6回で提言書の決定を予定している。
委員	料金を決定するうえで、一般会計補助金はどれくらい出すといった基準はないのか。それが決定しないと料金水準などを決定できない。

副市長	補助金の額については、一般会計も高齢化の進展に伴う扶助費の増嵩や新幹線事業を始めとした大型事業があるためそれらがはっきりとしないため一概には基準として示すことはできない。
3. その他	(次回開催日について調整) 第4回は10月11日の午後で調整する。